

REPORT

令和7年度富士山のごみ持ち帰りマナー向上キャンペーン

平成29年に大量のごみが登山道や山小屋周辺等に放置されたことから、平成30年から登山者にごみの持ち帰りを啓発するため、ごみ袋を持参していただく方に、イラストや多言語（12か国語）で、「ごみは持ち帰ることをデザインした」ごみ袋を手渡し、マナーの向上を図る「富士山のごみ持ち帰りマナー向上キャンペーン」を実施しています。

今年度も、開山前の取組として、日本語学校や首都圏の大学に加えて、旅行会社、宿泊施設、レジャー施設等に、「ごみ持ち帰り」に関するチラシの配架やポスターの掲示、ツアー参加者への呼びかけを依頼しました。

また、開山後には、特に登山者が集中する週末を中心に、県内3登山口、水ヶ塚駐車場、JR御殿場駅シャトルバス乗り場でごみ持ち帰りの声かけ、ごみ袋の配布を行いました。

キャンペーンで実施したアンケート結果からは、「富士山はきれいだった」という意見が多い一方で、「ごみ袋を持参してきていない」という意見がまだまだ見受けられました。美しい富士山の景観を維持するため、引き続き登山者の皆様にごみを家まで持ち帰ってもらうように取組を強化していきます。



ポスター



ごみ袋



ホームページ

NEWS × COLUMN × REPORT

REPORT

根原県有地維持管理・保全活動体験

朝霧高原にある根原県有地は、富士山麓を代表する自然的景観が広がり、草原特有の貴重な生物も生息しています。

かつては、かやぶき屋根の材料や、肥料として草を刈るにより、多様な生物が暮らす草原が保たれていました。しかし近年、人と草原との関わりが減少し、自然素材の利用も少なくなっています。定期的な草刈りが行われないと、草原は森林へと遷移してしまい、そこに生息していた生物の居場所が失われてしまいます。そのため、当県有地では「維持管理作業」や「草原性植生保全活動体験」の活動に取り組んでいます。

「維持管理作業」は、森林への遷移を防ぐために定期的に実施する草刈り作業です。今年度は1ヘクタールを超える面積の草原を刈りました。

根原県有地の広い草原で、場所を変えながら地道に作業を行っています。

「草原性植生保全活動」は、根原県有地の自然や維持管理の重要性を広く知っていただく

この草刈りで来年も見事なススキ原になります



どんな植物が見られるか植生調査をしました

くための体験活動で、今年度は令和7年10月18日（土）に、ボランティアの皆様や常葉大学社会環境学部部の学生、合わせて37名に参加いただき開催しました。

「保全活動体験」では、「草刈り体験」に先立ち「草原のセミナー」として、常葉大学大学院環境防災研究科の浅見教授と、同修士課程の増田氏から根原県有地の草原の重要性を解説いただきました。解説後には、「ススキ草原」と「外来植物が繁茂した箇所」で1メートル四方の範囲内にどんな植物が見られるか実際に調査を行いました。

草原は、人の手が入らなければ維持できない自然です。「保全活動体験」は例年秋頃に参加者を募集していますので、皆様の御参加をお待ちしています。

